

科目にかかわる情報				
科目の 基本 情報	授業科目 (欧文)	環境科学 Environmental Science		単位 2
	一般・専門の別・ 学習の分野	専門・ 自然科学系基礎・共通	授業形態・学期	講義・後期
	対象学生	MS－1，EC－1	必修・選択の別	選択
教員に かかわ る情報	担当教員・所属	小林敏郎・電子制御工学科		
	研究室等の連絡先	研究室：電子制御・情報工学科棟 2 階（内線：8 2 1 5） E-mail：t-koba@tsuyama-ct.ac.jp		
科目の 学習・ 教育内 容にか かわる 情報	基礎となる学問分野	工学/総合工学/地球・資源システム工学		
	専攻科学学習目標との 関連	本科目は専攻科学学習目標「(1)数学，物理を中心とした自然科学系の科目に関する知識を深め，機械・制御システム工学および電子・情報システム工学に関する基礎学力として応用する能力を身に付けていること」に相当する科目である。		
	技術者教育 プログラムとの関連	本科目が主体とする学習・教育到達目標は「(A)技術に関する基礎知識の深化，A－1：工学に関する基礎知識として，自然科学の幅広い分野の知識を修得し，説明できること」であるが，付随的には「B－1」および「G－1」にも関与する。		
	授業の概要	温暖化，オゾン層破壊などに代表される地球環境の悪化は，人類の経済活動の活発化などに伴い進行していると考えられており，これら地球環境問題の実態について学ぶ。次に，国連，各国政府および各国宇宙機関の取り組み，具体的な環境保全の対策などについて理解を深める。		
	学習目的	地球環境問題の現状と対策を理解する。また，演習やレポートを通じて，種々の学問・技術の総合応用力，複眼的思考による問題設定能力，公衆の健康・安全，倫理等の観点から問題点を認識する能力を養う。		
	到達目標	1. 地球規模の環境問題の原因・進行状況・対策等を理解する。 2. 演習やレポートを通じて理解を深化させる。 3. 技術者としての環境問題に対する自覚を養成する。 4. 環境，持続可能性，グローバル化の知識を有し，自らの工学分野に関係するより複雑な課題において活用できる。		
履修上の注意		本科目は「授業時間外の学習を必修とする科目」である。1 単位あたり授業時間として 1 5 単位時間開講するが，これ以外に 3 0 単位時間の学習が必修となる。これらの学習については担当教員の指示に従うこと。		
履修のアドバイス		最新の環境に関する法律やデータが，環境省のホームページを始めとして種々のホームページ上で公開されているので，随時閲覧して，自身の知見を広げることが望ましい。		
基礎科目				
関連科目		実験法の科学(専1年)，工学倫理（専1），工業倫理学（5）， 数理科学Ⅱ（5）		

授業にかかわる情報				
授業の方法			配布プリント、プロジェクタおよび板書により授業を進める。授業では人工衛星が取得した最新の地球観測データも教材として使用する。また、学生の理解度を確保するために随時質問を行う。さらに、演習を行わせることで理解度を高めるとともにレポートを課すことで学生の技術者としての環境問題に対する自覚を養成する。	
授 業 計 画	開講週		授業時間内の学習内容〔項目〕 (指示事項)	授業時間外の学習内容〔項目〕 (指示事項)
	前 期	1 週	●ガイダンス，地球の環境問題の概要，地球環境の成り立ち	レポート課題（１）
		2 週	●資源Ⅰ〔エネルギーと環境〕	「環境・エネルギー問題の現状と課題」
		3 週	●資源Ⅱ〔化石燃料と環境〕	（各人それぞれ異なった調査項目を選択）
		4 週	●資源Ⅲ〔核エネルギーと環境〕	
		5 週	●資源Ⅳ〔更新性エネルギー〕	
		6 週	●地球科学の基礎	
		7 週	●環境管理Ⅰ〔大気汚染〕	
		8 週	●環境管理Ⅱ〔酸性雨〕	レポート課題（２）「自宅でのエネルギー消費量と CO ₂ 排出量の調査検討」
		9 週	●環境管理Ⅲ〔地球温暖化①／温室効果ガス〕	
		10 週	●環境管理Ⅳ〔地球温暖化②／予測と対策〕	
		11 週	●環境管理Ⅴ〔生態系の破壊〕	レポート課題（３）「CSR 環境レポートの調査および作成」
		12 週	●環境管理Ⅵ〔水圏の汚染〕	
		13 週	●環境管理Ⅶ〔化学物質〕	
		14 週	●環境管理Ⅳ〔ごみとリサイクル〕 (期末試験)	
		15 週	期末試験の答案返却と解答解説	
教科書，教材等		教科書：御代川喜久夫 「環境科学の基礎 改訂版」（培風館） 参考書：授業中にプリント資料を配布する。		
成績評価方法		レポート課題は，指定した期日までに必ず提出すること。試験(70%)「原則 1 回であるが，状況により再試験を行うことがある。再試験は本試験と同等に評価する」。レポートの配点は 30%とする。なお，試験には，自筆ノート，配布プリント，電卓の他，講義で使用した原稿をプリントアウトしたものを持込可とする。		
受講上のアドバイス		環境に関する情報は国連や環境省のホームページをはじめとして種々のホームページで公開されているので，随時閲覧して，自身の知見を広げることが望ましい。『本科目は環境教育ならびに原子力コア人材育成関連科目である。』授業開始時に着席していない場合，遅刻とする。		